

EU単一市場誕生から30年、ユーロ圏は20カ国に

◆クロアチアの参加によりユーロ導入国は20カ国に

2023年1月、世界で類のない連合体の欧州連合（EU）は節目を迎えた。

EU単一通貨ユーロは02年に通貨の流通が西ヨーロッパの12カ国で始まってから導入国が徐々に増加し、23年1月のクロアチアの参加により20カ国となった。厳しい審査があるため、バルト三国の一つリトアニアが15年に導入して以来8年ぶりだ。ユーロを使用する人口は3.47億人に上る。バチカンやサンマリノなどいくつかの国でもユーロは使用されており、実質的なユーロ人口はさらに多くなる。ユーロ未導入のEU加盟国は、ブルガリア、チェコ、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア、スウェーデンと当初から導入を希望していないデンマークとなる。

クロアチアはさらに1月から、参加国間の国境での出入国管理のない自由な人の移動を確保する「シェンゲン協定」への参加も果たした。1985年に5カ国から始まったこの協定の現在の参加国は、EU加盟国（除くブルガリア、キプロス、アイルランド、ルーマニア）に、欧州自由貿易連合（EFTA）加盟国（アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン）を加えた27カ国で、4.2億人が対象となり、1日あたり350万人が国境を自由に行き来する。

◆EU単一市場誕生30年、EU加盟国は12カ国から27カ国へ拡大し魅力ある市場へ

また、EUの単一市場が誕生したのが、今から30年前の1993年1月1日だった。EUの前身の欧州共同体（EC）では加盟国内での、出入国や税関の審査を廃止して人や物の移動を容易にする単一市場が検討された。当時ドイツは東西に分断されている時代で、西側12カ国（フランス、西ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、英国、デンマーク、アイルランド、ギリシャ、スペイン、ポルトガル）の参加により、人、物、サービス、お金の自由な移動が可能な単一市場が形成された。これが現在のEUの始まりであり、冷戦終結後はバルト三国やブルガリアなどの中・東欧諸国の参加も増え、英国離脱はあるものの27カ国に拡大した。加盟には経済面や法の支配など厳しい条件が課せられるが、利便性を求めセルビア、モルドバ、ウクライナなど加盟申請が続いている。 【赤山英子】